

あなたにいま、届けたい
～他人事じゃない、レイプドラッグのこと～



明治大学情報コミュニケーション学部 堀口ゼミ

「レイプドラッグ」を知っていますか？

「レイプドラッグ」とは、

主に性暴力の際に加害者によって使われる薬物の総称です。

(性暴力とは、当人の合意なしに行われるあらゆる種類の性的行為の事です)

レイプドラッグとは、
特別な薬ではありません。

誰もが簡単に入手することができる睡眠薬や抗不安薬などが使われています。

つまり、どの様な人でもレイプドラッグの被害にあう可能性があり、誰にとっても身近な問題なのです。

注目すべきなのは、
薬が無味無臭無色という特徴

近年では、犯罪利用防止のため色付きの薬や液体に混ぜると青色に変化する薬などが出てきています。

Q 実際にどのように使われているの？

A 飲み物や食べ物に混ぜられることが多いです。

→知り合いと一緒だから大丈夫…と安心しないで！

レイプドラッグによる性犯罪は、その多くが知り合いとの間で起こっています。

特に席を立った後の自分の飲み物や食べ物には注意が必要です！

Q からだにはどんな影響があるの？

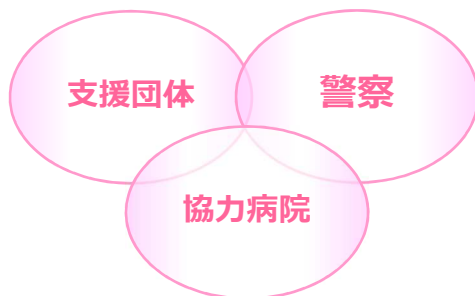
A 力が入らない、意識がぼんやりする、眠くなる、危険に対し反応が鈍くなる…etc.

また**前向健忘**といって、薬が作用した後、一定期間の出来事の記憶がなくなることも！

飲酒によるものとは違い、
周りの人には行動や言動がいつも通りに見える
ことが多いため、気づかれにくいことが特徴

もしレイプドラッグが使われたかと思ったら？

支援団体（ワンストップ支援センターなど）、病院（できればワンストップ支援センターの協力病院）、あるいは警察に連絡や相談をしましょう！



信頼できる人に
付き添ってもらえると安心です



相談をすることで以下のような支援が受けられます

- ①医療機関の紹介を通して、尿・血液検査を受けることができます。できるだけ早く来所することにより、これらの検査結果を証拠物として残すことができます。
- ②産婦人科を受診することにより、性感染症検査や妊娠検査などが受けられます。また緊急避妊薬を処方してもらうことや、外傷の診療、膣内容物などの証拠物を残すこともできます。（各種検査についての詳細は7ページへ）
- ③今後の対応を支援員に相談することができます。

まずは証拠の確保を！警察に行くのはそのあとでも大丈夫！

物的証拠はあなたの強い味方になってくれます。

この場合なるべく早く、支援団体や病院などの機関に相談をして
検査を受け、物的証拠を確保しましょう。

被害にあった証拠を残すために自分で出来ることがあります

- ・被害遭遇時に着用していた下着や衣服を、紙袋に入れて自分で保管しましょう。持参することで付着物から証拠が取れる場合があります。
- ・確実な証拠保全のために、診察までは入浴などを控えましょう。
- ・すぐに上記機関に連絡することが難しい場合は、信頼できる人に相談をするなどして、判断の手助けや安全の確保をしてもらいましょう。

被害にあってしまった、あなたへ

どうか自分を責めないでください。

被害にあったのはあなたの責任ではありません。

「あなたの望まない性行為」はすべて「性暴力」です。

Q. 私が軽率だったから被害にあったのかも…。

A. どんな状況であったとしても、被害の責任は全て加害者にあります。
あなた自身の外見や服装、行動とは何の関係もありません。

Q. 被害にあった時の記憶がありません…。

A. 「記憶がない、あいまい」であることは、レイプドラッグを使用されたことによる症状の可能性が非常に高いです。あなた以外にも、「記憶がない」症状に悩んでいる被害者がいます。記憶がないことによって、あなたが非難されることはありません。

Q. これからどうしたら良いのか分かりません…。

A. まずは、信用できる人に打ち明けてみましょう。ひとりで抱え込まないことが大切です。知り合いに話せないなら、支援センターの相談員に話してみませんか？きっと、あなたの支えになってくれます。

被害者が身近にいる、あなたへ

静かに見守り、意思を尊重し、信じてあげてください。
心身の回復には時間がかかります。焦らずゆっくり支えましょう。

あなたに、して欲しいこと

- ・「あなたの責任ではない」と繰り返し伝えること。
- ・「打ち明けてくれて、ありがとう」と被害者の勇気と意思を尊重すること。
- ・被害者を孤独にさせないこと。孤立させないこと。
- ・被害者にとって、安心・安全な場所をつくること。
- ・被害者の話を冷静に聞き、被害者を信じること。
- ・相談機関についての情報を提供すること。

あなたに、して欲しくないこと

- ・動揺した気持ちを、被害者にぶつけてしまうこと。
二次被害を生んでしまいます。
「なぜ、どうして、あなたの不注意だった、〇〇すべきだ、いつまで泣いているの？、もうそろそろ元気になってね…」と言いたくなるかもしれませんが、でも被害者にとって説教や激励はつらいだけです。
多くの方は、自分のことを大切に思ってくれている人とのつながりに支えられて、回復していきます。
- ・理解をせずに励ますことは、逆効果になる可能性があります。
「覚えてなくて良かったね、早く忘れよう、気持ちは分かる、がんばって」などの言葉は言わないようにしましょう。
- ・被害のことを被害者の承諾なく第三者に伝えること。

ワンストップ支援センターで受けられる支援や流れ

被害後に電話相談や面接相談を受け、
被害内容・相談内容に応じて様々なサポートを受けることができます。



ワンストップ支援センターの紹介

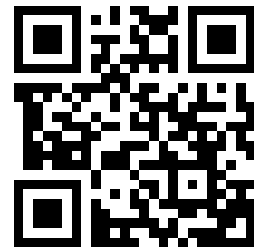
現在全国に設置されているワンストップ支援センターでは、
各都道府県の行政と連携した様々な総合的支援方法を提供しています。
ここでは今回取材にご協力いただいた3か所のワンストップセンターを紹介します。

1 性暴力救援センター・東京 (SARC 東京)

・24時間ホットライン

性暴力救援ダイヤル NaNa 03-5607-0799

東京都在住の方を対象に様々な補助制度を利用して支援を受けることができます。また支援の一環として、無料で様々な検査が受けられます。



2 かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター かならいん

・相談電話 045-322-7379 (ナヤミナク)

24時間365日、性被害にあわれた方やそのご家族などからの相談を受けています。神奈川県在住の方を対象に、必要に応じて医療機関の受診などの支援も受けることができます。



3 性暴力救援センター・大阪 SACHICO

・24時間ホットライン 072-330-0799

病院拠点型のワンストップ支援センターです。支援員・看護師・産婦人科医が24時間対応し、ニーズに応じた診察と検査により総合的支援を提供します。



+ 参考に！

近年、警察庁は性犯罪捜査における早期の証拠採取・保全の重要性を認識し、平成29年には各都道府県警に性犯罪への適切な対応を求める書状を出しています。



検査について

被害にあってから72時間以内に診察を受けることによって、緊急避妊薬を内服することや、性感染症の検査を受けることができます。

また証拠物の採取は、加害者を特定することにも繋がります。

性感染症検査にかかる費用は1項目が1200～3000円程度です。(健康保険が適用されるかは各自治体に要問合せ)

しかし警察に通報して、被害を届けた場合には一定額の公費負担があり、主に診察料、診断書料、緊急避妊薬の処方、性感染症検査、人工妊娠中絶などの費用が公費負担されることがあります。また保健所では、匿名で無料のHIV検査ができます。

最後に

レイプドラッグを用いた性暴力は深刻な問題であるにもかかわらず、その実態を多くの人知らないのが現状です。私たち明治大学堀口ゼミナールは、特に同年代である若者にレイプドラッグ問題の適切な知識と、いざという時の対処法を知ってもらうことが、この性暴力を根絶させる有効な手段であると考えています。

このパンフレットが、あなたの心と体を守る手助けになりますように…

発行

2019年3月7日

監修

にれの木クリニック 長井チエ子先生
阪南中央病院 加藤治子先生
村瀬幸浩先生 (ヒューマンセクソロジー研究者)

取材協力

SARC 東京
SACHICO
かならいん

(共に順不同)

指導教員

明治大学情報コミュニケーション学部 堀口悦子